(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6897978号
(P6897978)
(45)発行日　令和3年7月7日(2021.7.7)　(24)登録日　令和3年6月14日(2021.6.14)

(51)Int.Cl.　F I
A45C 11/34 (2006.01)　A45C 11/34 101C
A45C 11/34 101A

請求項の数 3　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願2018-171169(P2018-171169)
(22)出願日　平成30年9月13日(2018.9.13)
(65)公開番号　特開2020-39765(P2020-39765A)
(43)公開日　令和2年3月19日(2020.3.19)
審査請求日　令和2年5月15日(2020.5.15)

特許法第３０条第２項適用　クツワ株式会社は、平成３０年８月６日、同社が発行する「２０１９新入学カタログ」２ページに、本願発明を掲載した。　〔刊行物等〕
クツワ株式会社は、平成３０年８月８日・９日・２３日・２４日、同社が主催する「２０１９新入学実務者商談会」にて、本願発明を展示した。

(73)特許権者　593093423
クツワ株式会社
大阪府大阪市中央区南久宝寺町１丁目３番９号
(74)代理人　100165755
弁理士　藤田　典彦
(72)発明者　橡尾　洋介
大阪市中央区南久宝寺町１丁目３番９号
クツワ株式会社内

審査官　東　勝之

最終頁に続く

(54)【発明の名称】筆箱

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
表裏の両側に第一の収納部及び第二の収納部を有する枠体と、第一の収納部及び第二の収納部を開閉する蓋体と、を備えた両開きの筆箱であって、
前記枠体は、前記第一の収納部及び前記第二の収納部を分割する仕切部と、該仕切部の両端に前記第一の収納部及び前記第二の収納部を連通するにように形成された第一の連通部及び第二の連通部と、第一の連通部に着脱自在に取付けられる鉛筆ホルダと、第二の連通部に着脱自在に取付けられる消しゴム入れと、を有することを特徴とする筆箱。
【請求項２】
鉛筆ホルダは、鉛筆を差し込んで保持するためのホルダ部と、仕切部の第一の連通部に差し込み得る差込板と、からなり、前記差込板は、第一の連通部に差し込んだ状態において前記仕切部と係合する係合片を有することを特徴とする請求項１記載の筆箱。
【請求項３】
消しゴム入れは、枠体の第二の連通部に嵌合する箱体であり、該箱体の外周面には、枠体の第二の連通部の内周面に形成された係合突起と係合し得る係合凹部を有することを特徴とする請求項１又は２のいずれか一項に記載の筆箱。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】

【０００１】
本発明は、表裏の収納部に筆記具を収納する両開きの筆箱に関する。
【背景技術】
【０００２】
近年、教育の機会均等を促進するという社会の風潮に伴って、教科書出版会社が、B5サイズの教科書では文字等が小さくて読みにくい児童・生徒等に配慮して、一般的なＢ５サイズで印刷された教科書よりも大きいサイズであるＡ４サイズで印刷された教科書等を選択できるようになり、Ａ４サイズの教科書やノートが普及してきている。
また、学校等の教育現場においても、教員によってパソコン等で作成された教科書の補足資料等をプリンタでA4サイズの紙に印刷したものを授業中に配布して児童・生徒が使用する機会が増えてきている。
【０００３】
その一方で、児童・生徒等が学校で使用する学習机は、概ね横幅６００㎜、縦幅４００㎜程度からなる机上面積を有するものが一般的に使用されているため、Ａ４サイズ（横幅２１０㎜、縦幅２９７ｍｍ）以上の教科書・資料集・補足資料等、及び、ノートを読み書きできる状態に展開した後に、筆箱を開いて取り出しやすい状態で置こうとすると、図１に示すように、左右のどちらにも筆箱を置くためのスペースを確保することが困難であり、使用者の正面から最も離れた位置に筆箱を横方向に向けて設置するような状態になってしまっている。このような場合、従来の筆箱（例えば、特許文献１等参照）の設置した際に、児童・生徒が腕を伸ばした状態の右手で鉛筆を握りながら、左方向に引き抜くことは難しく、とりわけ利き手が右手の使用者にとって不便であった（なお、この設置した状態では、左手で鉛筆を握りながら、左方向に引き抜くことは比較簡単である）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】実開昭５７－１１６１１３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
上述した背景を鑑み、本発明は、B5、Ａ４サイズ以上の教科書・資料集・補足資料等、及び、ノートを読み書きできる状態に展開した後に、筆箱を開いて取り出しやすい状態で学習机に置き、使用者の正面から最も離れた位置に筆箱を左右方向に向けて設置した状態において、児童・生徒が腕を伸ばした状態で鉛筆を握った手の方向（右手なら右側、左手なら左側）に引き抜きやすくすることが可能な筆箱を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明は、上記課題に鑑み、表裏の両側に第一の収納部及び第二の収納部を有する枠体と、第一の収納部及び第二の収納部を開閉する蓋体と、を備えた両開きの筆箱であって、
前記枠体は、前記第一の収納部及び前記第二の収納部を分割する仕切部と、該仕切部の両端に前記第一の収納部及び前記第二の収納部を連通するにように形成された第一の連通部及び第二の連通部と、第一の連通部に着脱自在に取付けられる鉛筆ホルダと、第二の連通部に着脱自在に取付けられる消しゴム入れと、を有することを特徴とするものである。
【０００７】
また、上述した構成に加え、鉛筆ホルダは、鉛筆を差し込んで保持するためのホルダ部と、仕切部の第一の連通部に差し込み得る差込板と、からなり、前記差込板は、第一の連通部に差し込んだ状態において前記仕切部と係合する係合片を有することが好ましい。
【０００８】
また、上述した構成に加え、消しゴム入れは、枠体の第二の連通部に嵌合する箱体であり、該箱体の外周面には、枠体の第二の連通部の内周面に形成された係合突起と係合し得る係合凹部を有することが好ましい。

【発明の効果】
【０００９】
請求項１－３記載の発明によれば、使用者の正面から最も離れた位置に筆箱を横方向に向けて設置した状態において、児童・生徒が腕を伸ばした状態で鉛筆を握る手の方向に対応して、左右どちらの方向でも鉛筆を引き抜きやすくすることが可能な筆箱を提供することが可能である。
【図面の簡単な説明】
【００１０】
【図１】授業中の学習机上の状況を示す概念図である。
【図２】本発明の実施形態に係る筆箱の一例を示す分解斜視図である。
【図３】図２の鉛筆ホルダのみを示す分解斜視図である。
【図４】図２の消しゴム入れのみを示す斜視図である。
【図５】図２の鉛筆ホルダ及び消しゴム入れを表側の第一の収納部から取付けて鉛筆と消しゴムを収納した状態を示す斜視図である。
【図６】図５の平面図である。
【図７】図６の(a)F部分のC－C線拡大断面図、及び、(b)G部分のD－D線拡大断面図である。
【図８】図２の鉛筆ホルダ及び消しゴム入れを裏側の第二の収納部からみた状態を示す分解斜視図である。
【図９】図２の鉛筆ホルダ及び消しゴム入れを裏側の第二の収納部から取付けた状態を示す斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１１】
本発明の実施形態について図２－９に基づいて詳細に説明する。
【００１２】
（実施形態）
本発明は、図２に示すように、表側の第一の収納部A及び裏側の第二の収納部Bを有する枠体１０と、該枠体１０の第一の収納部A及び第二の収納部Bを開閉する蓋体２０と、を備えた両開きの筆箱であって、枠体１０は、第一の収納部A及び第二の収納部Bに対して着脱自在の鉛筆ホルダ３０及び消しゴム入れ４０を有するものである。
【００１３】
蓋体２０は、第一の収納部A及び第二の収納部Bを被覆し得る平板部２１と、該平板部２１の側縁付近に設けられた枠体１０の外枠部１１の側面中央付近に固定された磁石１７に吸着する金属素材を主体とする吸着部２２と、を有するものである。
【００１４】
枠体１０は、略長方形状の外枠部１１と、該外枠部１１内の表側の第一の収納部Aと裏側の第二の収納部Bとに約二等分に分割する仕切部１２と、鉛筆Pを保持するための鉛筆ホルダ３０と、消しゴムEを入れるための消しゴム入れ４０と、を備えるものである。なお、この仕切部１２を部分的に一段低く形成された段部１２aを有することで、鉛筆Pよりも太いフェルトペン等を収納することが可能である。
【００１５】
この枠体１０内の仕切部１２の両端には、鉛筆ホルダ３０及び消しゴム入れ４０を第一の収納部A又は第二の収納部Bのどちらの表裏の上下方向からも着脱自在に取付けられるようにするために、該仕切部１２の両端に第一の収納部A及び第二の収納部Bを連通する第一の連通部１３及び第二の連通部１４を有するものである。
【００１６】
第一の連通部１３は、後述する鉛筆ホルダ３０の薄板状の差込板３２を差し込み得る程度の狭い隙間で形成されるものであり、また、第二の連通部１４は、消しゴム入れ４０を取付け得るように略方形状に開口して形成されるものである。また、この第一の連通部１３の周辺の外枠部１１の内周面には、表裏の上下方向に差込板３２を案内するために、一

対の略L字状のガイド部１１aを有している。
【００１７】
鉛筆ホルダ３０は、図２、図３に示すように、鉛筆Pを差し込んで保持するための複数の略円筒体を並列して一体となるホルダ部３１と、第一の連通部１３に差し込み得る薄板状の差込板３２と、からなり、ホルダ部３１は、該差込板３２の両側縁に形成された軸受部３２ｂ、３２ｂに軸支される軸部３１aと、外枠部１１に形成されたガイド部１１a、１１aに差し込み得る上下方向の差込溝３２ｃ、３２ｃと、を有するものである。
【００１８】
差込板３２は、図３、図７(b)に示すように、第一の連通部１３に対して略直角方向に差し込んだ状態において、仕切部１２と係合するように差込板３２の中央付近を切欠いて一部を突出させた略方形状の弾性の係合片３２aを有するものである。
【００１９】
消しゴム入れ４０は、図２、図４に示すように、厚みを有する消しゴムEを収納し得るように、上方に開口して枠体１０の高さと少なくとも同程度の高さ以下の消しゴムEの収納スペースを有する箱体であり、略方形状に形成された第二の連通部１４の周囲の内周面と、に嵌合するように取付けられるものである。
【００２０】
消しゴム入れ４０における、外枠部１１の内周面に当接する壁面は、外枠部１１の内周面と同一の高さであり、かつ、仕切部１２側に位置する壁面は、外枠部１１の厚みの半分程度で収納空間を略二等分する仕切部１２の位置と同一の高さである。
【００２１】
消しゴム入れ４０は、外枠部１１の上下両方の端面に形成された２つの凹所１５、１５と係合する凸状の第一の係合部４１、４１と、仕切部１２の幅方向全体に載置するように係合する第二の係合部４２と、を有するものである。
【００２２】
消しゴム入れ４０の両側面には、消しゴム入れ４０を取付けた状態から抜け止めをするために、図５、図７(a)に示す仕切部１２の平面方向の延長線上に位置する外枠部１１の内周面の箇所に形成された係合突起１６に係合する略半円形状に形成された係合凹部４３と、該係合凹部４３に係合突起１６を表裏の上下方向から摺接しながら案内する溝部４４と、を有するものである。
【００２３】
消しゴム入れ４０の底面は、消しゴムEを載置した際に、適度な隙間を消しゴムと消しゴム入れとの間に設けて消しゴム入れ４０と消しゴムEとのくっつきを防止するために、複数の突起４５、４５を規則的に配列した凹凸面形状を有するものである。
【００２４】
上述した構成によって、本実施形態の筆箱は、表側の第一の収納部Aまたは裏側の第二の収納部Bのどちらでも鉛筆ホルダ３０及び消しゴム入れ４０を着脱自在に取付けることができ、児童・生徒等の使用者が鉛筆Pを引き出しやすい側で第一の収納部Aまたは第二の収納部Bのどちらでも選択して鉛筆Pを保持し、消しゴムEを収納した状態で使用することが可能である。
【００２５】
そのため、例えば図５に示すように、第一の収納部A側から鉛筆ホルダ３０及び消しゴム入れ４０を取付けた場合、使用者が左手で鉛筆Pを握った後、左方向に引き抜きやすくなり、とりわけ左利きの使用者にとって利便性を向上させることが可能である。
【００２６】
また、図８、９に示すように、第二の収納部B側から鉛筆ホルダ３０及び消しゴム入れ４０を取付けることができ、使用者が右手で鉛筆Pを握った後、右方向に引き抜きやすくなり、とりわけ、右利きの使用者にとって利便性を向上させることが可能である。
【００２７】
したがって、児童・生徒等の使用者の正面から最も離れた位置の学習机上に筆箱を左右

方向に向けて設置した状態において、児童・生徒が腕を伸ばした状態で鉛筆Pを握った手の方向に応じて鉛筆ホルダ３０及び消しゴム入れ４０を着脱自在に取付けることで、左右のどちらの手でも鉛筆Pを引き抜きやすくすることが可能な筆箱を提供することが可能である。

【００２８】

消しゴム入れ４０は、第一の収納部A又は第二の収納部Bのどちらから取付けたとしても、枠体１０の高さと少なくとも同程度の高さの収納スペースを有するため、第一の収納部A及び第二の収納部Bのどちらにでも取付けた状態においても鉛筆Pを保持した状態を阻害することなく、様々な形状、とりわけ、厚みを有する消しゴムEを収納することが可能である。

【００２９】

また、消しゴム入れ４０の壁面の高さを仕切部１２と同一の高さにしたことで、図６に示すように、鉛筆ホルダ３０と消しゴム入れ４０との間に仕切りがないため、鉛筆P及び消しゴムEの両方が取り出しやすくすることが可能である。

【符号の説明】

【００３０】

10…枠体、11…外枠部、11a…ガイド部、12…仕切部、12a…段部、13…第一の連通部、14…第二の連通部、15…凹所、16…係合突起、17…磁石

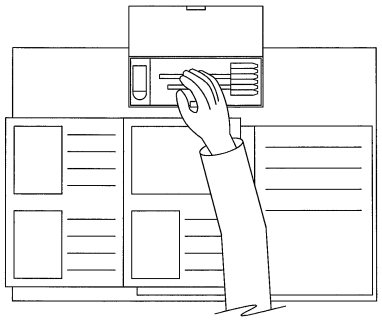
20…蓋体、21…平板部、22…吸着部、

30…鉛筆ホルダ、31…ホルダ部、31a…軸部、32…差込板、32a…係合片、32b…軸受部、32c…差込溝、

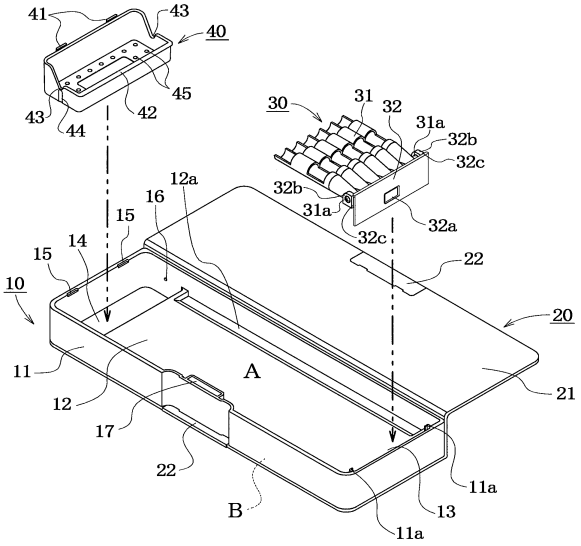
40…消しゴム入れ、41…第一の係合部、42…第二の係合部、43…係合凹部、44…溝部、45…突起、

A…第一の収納部、B…第二の収納部、P…鉛筆、E…消しゴム。

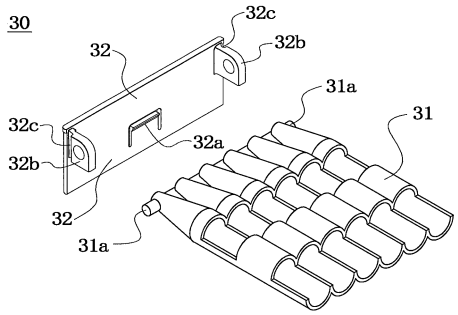
【図１】



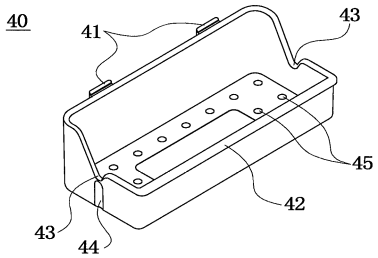
【図２】



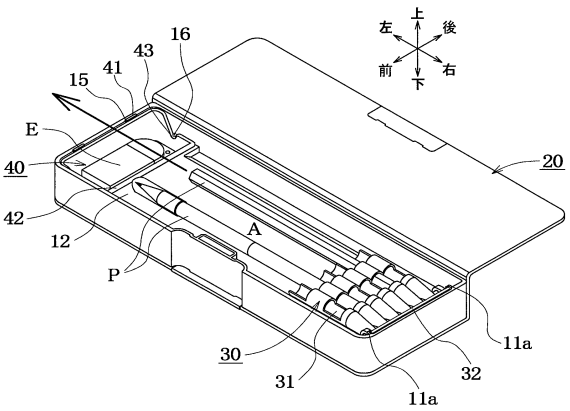
【図３】



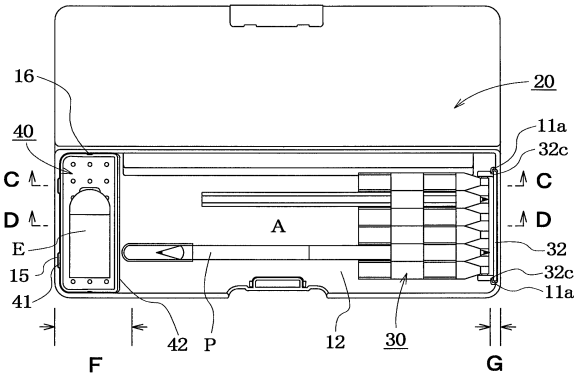
【図４】



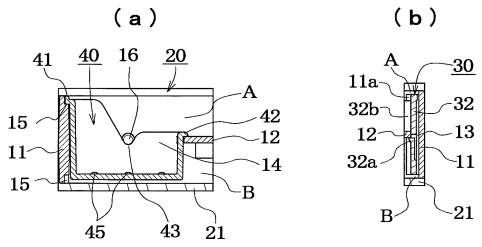
【図５】



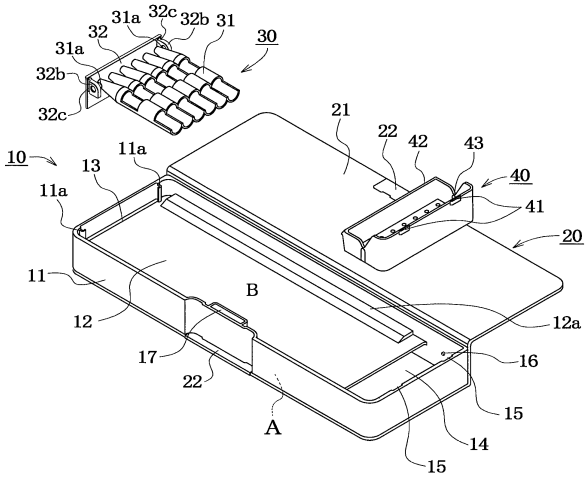
【図６】



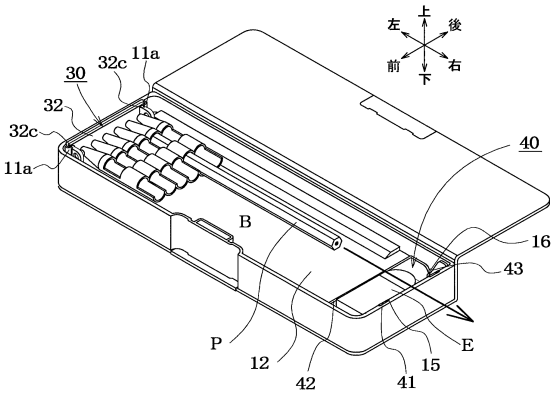
【図７】


（ａ）
（ｂ）
41
40
16
20
A
42
12
14
B
15
11
15
45
43
21
A
30
11a
32b
32
12
13
32a
11
B
21

【図８】


31a
32c
32b
31
32
31a
30
32b
32c
21
22
42
43
10
11a
13
11a
40
41
20
11
B
12
12a
17
16
22
15
A
14
15

【図９】


上
左
後
前
右
下
30
32c
11a
32
32c
11a
40
B
16
43
P
E
12
42
15
41

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭５８－０６５９２３（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５６－０６７０３０（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５７－０８８４１７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６１－１９０２２１（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４５Ｃ　１１／３４